

From: つり人社
Subject: **つり人社メルマガ**
Date: 2010年9月26日 9:30:04 JST
To:
Reply-To: つり人社

~~~~~

つり人社メルマガ Vol.5(2010.09.26)  
(毎月10・26日更新)  
~~~~~

様

みなさま、こんにちは。
つり人社 メルマガ運営事務局です。
彼岸を過ぎてようやく秋らしくなってきました。淡水は溪流禁漁と入れ替わりに管理釣り場がこれからにぎわう季節。海もエサ、ルアーともに楽しみがたくさんですね！
「メルマガで始めよう！ 釣り入門」では、毎回旬の釣り解説をお届けしています。ビギナーの方も始めるなら今。台風等の水難事故にはくれぐれも気をつけて、楽しい釣りを満喫してください。
「読んでトクする釣りコラム」は、ハリ掛かりのメカニズムと題して、釣りの大基本を見つめなおします。
今月の新刊は釣りポータルサイトの「e-つり人」をご覧ください。
<http://e-tsuribito.jp/>
▽ 今月は4つのニュースをお届けします！ ▽

★INDEX

- 【1】鈴木康友の「読んでトクする釣りコラム5」
ハリ掛かりのメカニズム（前編）
1. 「当たり前」をもう一度深く考える
最初に問題です。
「魚はどうして釣りバりに掛かるのでしょうか」
釣り人の皆さんには当たり前すぎて「引っかけ問題？」と思われるかもしれませんが（笑）。
「そりゃ、アタリをとって合わせるからだろう」というあたりが多い答えでしょうか。しかしこの問題を深く考えていくと、アタリの出方とハリ掛かりのメカニズムというものが俄然リアルに、さらに釣りそのものが深く面白くなってくるのです。

1. 「当たり前」をもう一度深く考える
最初に問題です。
「魚はどうして釣りバりに掛かるのでしょうか」
釣り人の皆さんには当たり前すぎて「引っかけ問題？」と思われるかもしれませんが（笑）。
「そりゃ、アタリをとって合わせるからだろう」というあたりが多い答えでしょうか。しかしこの問題を深く考えていくと、アタリの出方とハリ掛かりのメカニズムというものが俄然リアルに、さらに釣りそのものが深く面白くなってくるのです。
- 釣りを知らない人は、エサやルアー・フライにガブリと食いついた魚がそのまま仕掛けを引っ張っていった勝手にハリ掛かりしてしまう、そんなシーンを想像されるかもしれませんが。実際には魚というのは、人がリンゴやステーキを食べたりするように、エサに直接ガブリと食いつくわけではありません。いや、なかには文字どおり小魚にガブリと噛みつくヒラメのような魚もいることはいます。アオリイカも鋭利な歯でエサをスパッと切るように食べます。サザエを殻ごとバリバリ噛み砕いて食べるイシダイ、釣リイトごとエサを食いちぎってしまうフグ（釣り人には実に迷惑な）なんかもいますね。

さて、ところでどうしてこんな素朴な質問をしたかということ、
「魚は常に水の中にいる」
「釣り人のエサには仕掛け（ハリ・イト）が付いている」
この実に当たり前なことを、ここで再確認していただきたかったからです。そこにはアタリとハリ掛かりのメカニズムについて、とても重要なヒントが含まれています。

多くの魚はエサを食べるとき、まわりの水ごと吸い込みます。この点について無意識な釣り人が意外に多い、そう私は見えています。また、吸い込んだ時点で違和感を感じた魚は次の瞬間それを吐き出します。この点については、これは本当にそうなのですが、釣り人はかなり無自覚です。

例を挙げてご説明しましょう。
以前、弊社で「エリアマスター免許皆伝」というビデオを出したことがあります。フライ・ルアーのポンドタイプの管理釣り場で、フライで断トツの釣果を誇る名手たちの釣りを詳しく紹介したものです。管理釣り場だから魚はたくさん釣れて当然と思うでしょう？ ところがそこには魚影は多いのですが、非常にスレていて、普通の人々がただ漫然とやると1日数尾、ボウズもザラというテクニカルな場所なのです。そんな釣り場で彼らは、なんとアベレージ100以上という驚異的な釣果を叩き出していました。ほかのフライの人たちはもちろん、手返して有利なはずのルアーマンが束になっても勝てません。あまりの釣りっぷりに、彼らは現地で「職人」という称号で呼ばれていました。

一体全体、何が違うのでしょうか。特別なフライでも使っている？ いえ、そんなことはありません。

釣果の秘訣の1つはキャストの距離でした。多くの人が20ヤード前後を釣っているなかで、「職人」たちは確実にプラス数ヤード先（沖）にフライをキャストしていたのです。池の中心部に近いほどスレていない魚が多いことを彼らは知っていたのですね。

もう1つは、キャストしたフライが着水する瞬間に仕掛け全体（ライン・リーダー・ティベット）を一直線に張ること。これがキモだったのです。

水中撮影でわかったのですが、魚たちはフライが着水するとすぐに寄ってきてフライを吸い込み、違和感を覚えてすぐに吐き出していました。そして次の瞬間にはまた別の魚がフライを吸い込み、吐き出していました。撮影中、何度となく同じ光景が繰り返され、私たちはモニターの前で呆然とそのシーンを見つめていました。さらに驚いたのは、それだけフライが吸い込まれているのに、ほとんどの場合アタリが出なかったことです。なぜか？ 犯人は釣り人とフライの間に生じるラインのタルミ、それと水の抵抗でした。これらがアタリを吸収していたのです。

職人はこのタルミを極力なくすことで途中で消えていたアタリを「出して」いたのです。ところが普通の人はこれができない。実際、自分ではラインを張っているつもりでもフライからロッドティップまでを一直線にするためには、さまざまなことに気をつかわなくてはなりません。しかしその結果は釣果の差にははっきりと出ていたのです。

ヘラブナ釣りでも同様のことが起こります。水中のヘラブナはウドンをずっと吸ったり吐いたりしているのに、ましてや感度の高いヘラウキを使っているのにアタリが全然出ない。これもやはりDVD製作のために水中撮影を行なってわかったことです。

2. 次回予告。アタリのメカニズム、その核心に迫る

私たちが目で見て、あるいは感じて合わせているアタリは、本当はすべてのアタリのごくわずかに過ぎないことがわかりただけたでしょう。一方で名手と呼ばれる方たちはアタリを出す術に長けています。それは、彼らが「魚は常に水の中にいる」「釣り人のエサには仕掛け（ハリ・イト）が付いている」ことをよく理解して、ではどうすればよいのかを常に考えているからです。
今回は途中で紙面が尽きてしまいました。次回は「多くの魚はエサを食べるとき、まわりの水ごと吸い込む」このことを中心にお話の続きをしましょう。

●【2】メルマガで始めよう！釣り入門5. シロギスの投げ釣り「前篇」
爽快！大海原に向かってキャスト

1. 投げ釣りは「海との会話」
今回取り上げるのは「シロギスの投げ釣り」だ。
シロギスは最大でも30cmと小型の部類に入る魚だが、スマートな体型と美しさ、そして魚体に似合わせ強いアタリで投げ釣りファンをトリコにする存在だ。臭みがなく、フライや天ぷらで美味しく食べられるのも大きな魅力。分布は北海道や東北の一部を除く全国の沿岸で、水深30mで浅い砂地に生息する。
このシロギスを、時に150mを超える豪快なキャストでねらうのが投げ釣りだ。水平線しか見えない大海原に向かって、遠慮することなくロッドを振り切る快感は、一度味わうとヤミツキ必至である。「投げただけで気持ちいい」と言う人も多い。
もちろん、魚が釣ればもっと楽しい。はるか100m以上彼方から「コンッ！ブルッ！」とアタリが手もとに伝わる快感といったらたらまらない。あるエキスパートアングラーは、投げ釣りの魅力を「まるで海との会話のようだ」と表現した。

2. シーズンはまさに今！
一般的なシーズンは3月中旬～12月。梅雨～初秋は産卵のために浅場へ乗っ込んでくる個体をねらい、それ以降は少しずつ深場へ移動する落ちギスが相手になる。入門にもっとも適したシーズンはまさに今！ 10～11月は15～20cmのシロギスが大規模な群れを作り、比較的岸近くの浅場を回遊するので、キャストがままならないビギナーでも入れ食いを味わえる可能性が高い。

付け加えると、釣期は場所によって大きく異なるので注意が必要だ。12月に入るとバタリと釣れなくなるところもあれば、一年中シロギスの回遊が見られるフィールドもある。エリアごとの詳細なシーズンは、近くの釣具店や、釣りをしている人に直接聞くのがベストだろう。

ねらうべきポイントは「砂地」。これに尽きる。底が砂地になっていればどこでも可能性があり、港や砂浜がおもなポイントになる。なかでも、船道やカケアリなど地形変化が絡むスポットや、海藻や岩礁の周辺は有望だ。

3. タックルについて
サオは、釣具店で「投げザオ」を購入しよう。重いオモリをフルパワーで遠投できる、25号前後で4mほどのものが使いやすい。

リールは大型のスピンングリールが適している。4000番クラスのスピンングリールで充分強いになるが、本格的に始めるなら「投げ釣り専用」と銘打たれたものを購入しよう。これらはドラッグがないものが多く、スプール径も大きく、遠投に特化して設計されている。

イトは、「ミチイト」（PE1.5号またはナイロン2～3号）に「チカライト」（ナイロン3～12号）を組み合わせる。ナイロンラインは安価なのがメリット。伸びやすいため、食い込みがよくバラシが少ないのも特長だ。PEラインはナイロンと比べると高価だが、伸びにくいため感度が非常に高く、海底の凸凹やシロギスのアタリを察知しやすい。「ミチイト」と比べて太くて強度が高い「チカライト」を付けるのは、キャストイング時の衝撃を吸収してラインブレイクを防ぐためだ。これに25号前後のカイソーテンピンをセットし、多点バリの仕掛けを合わせる。仕掛けは、出来合いのものが市販されているので、最初はそれを使えばOK。

ここまで説明したのはが本格的な投げ釣りタックルだ。シロギスが岸の近くを回遊しているときは、ルアーロッドなど、短めのサオを流用した「チョイ投げ」を楽しむことができる。5～10号の軽いオモリを20～30mほどキャストしてシロギスをねらう手軽なスタイルだ。

4. 次回予告

次回は、より具体的な釣りのアドバイスを。キャストイング方法や、エサの選び方、シロギスの誘い方、アタリがあったときの注意点などを解説する。お楽しみに！

5. 特効！参考書籍

シロギス釣りをもっと深く知りたい方、投げ釣り全般をマスターしたい方はこちらをどうぞ！
『投げ釣り』坂井勇二郎（つり人社）B5変形判144P。定価：1365円（税込）
<http://e-tsuribito.jp/pages/shopping/book/05/457.php>

●【4】メルマガで始めよう！釣り入門6. ルアーで釣る管理釣り場（前編）
秋～冬も楽しめる身近なフィールド

1. 管理釣り場ってどんなところ？
管理釣り場は、人工の池（ポンド）に魚を放流している止水タイプと、流水タイプの2種類がある。止水タイプは、従来の「釣り堀」という言葉からイメージしがちな、小さな池でフナやコイを釣るといった旧式のものから大きく変化を遂げている。ルアー・フライフィッシングでさまざまなトラウトとのゲームを楽しめるスポーツフィッシングに特化した施設が増え、一般化しているのだ。広大な敷地に設けられた複数のポンド、レストラン等の各種施設など、ちょっとしたリゾート気分を味わえるところまであって、初めて訪れる人は「ここってホントに釣り堀？」と思われるかもしれない。しかも、これらの多くは普段着にスニーカーで楽しめるので気軽に訪れることができる。

流水タイプの管理釣り場は、自然溪流を利用したものと、人工の流れを作って魚を放流した2つのタイプがあるが、いずれも周囲の自然を巧みに利用した景観が魅力。止水タイプよりも高地や山間にあることが多く、ウエーダーが必要になる本格的なところもある。一般溪流の練習フィールドにも最適だ。

対象魚はトラウト中心。ニジマスをはじめ、イワナ、ヤマメ、さらにはブラウントラウトやイトワなど、自然のフィールドではなかなかお目にかかれない魚種を放流している施設も多く、60～80cmの大ものが釣れることも珍しくない。

2. どんなタックルを使えばいいの？
今回紹介するのはルアーフィッシング。ルアーロッドにはさまざまな種類があるが、管理釣り場ではおもにトラウト用にデザインされたものが主流。最近ではエリア（管理釣り場）専用モデルなども登場しており、釣具店によっては専用コーナーも設置されている。使用するルアーの種類や重量、遠投が必要な場所ならパワーの有無などと、複数の要素をもとに適切なロッドを選ぶけど、スプーン用ロッド、ミノー用ロッドなど、1つ1つの要素を重視しすぎると、どうしても何本ものロッドが必要になってしまう。そこで、はじめは汎用性の高い、使いやすいロッドがおすすめ。ある程度の種類のルアーと釣り方をカバーできるものとして、全長6フィート前後で3g程度のルアーが投げられるロッドがよいだろう。

リールは、最初の1台でおすすめなのは、サイズが1000～2000番のシャロースプール（浅溝）タイプのものである。管理釣り場では、小さな軽いルアーを遠くに投げることでできるリールが理想。そのためには最もラインが巻ける、ドラッグシステムが搭載されているスピンングリールが最も適している。ラインは3lb（0.8号）ほどの太さのものが最も汎用性が高い。スプーンとミノーなどのブラグの両方を使うことを考えた場合、ルアーの飛距離を妨げることもなく、ロスト率も高くない太さといえるだろう。

3. 次号予告
今回はルアーの選び方、使い方など実践的なテクニックを解説する。また、ポイントの見方など、釣果アップを目差すための工夫も紹介。ぜひお楽しみに！

4. 特効！参考書籍
管理釣り場のルアーフィッシングについて、タックルやルアー全般、また止水のテクニックについて特にていねいに解説している、管理釣り場ゲームフィッシング本（ルアー）の決定版です。
『管理釣り場のルアーフィッシング』寺田英一（つり人社）
B5変形判112P、定価：1260円（税込）
<http://e-tsuribito.jp/pages/shopping/book/04/466.php>

今号も最後までお読みいただき、ありがとうございました。
次号は10月10日（日）にお届けします。

今後とも「つり人社 メルマガ」をよろしく願いいたします。
それでは、みなさま、今月も楽しい釣りライフを！